

小中一貫教育の特長を生かして体力向上と運動好きな児童生徒を育てる取組

学校名 周南市立鼓南小学校(山口県)
全校児童数 14名(男子8名 女子6名)
中学校生徒数12名(男子8名 女子4名)
(本実践に係る問合せ先)
電話番号 0834(84)0012
学校メールアドレス konansho@shunan.ed.jp

1 実践(研究)のねらい

- (1) 山口県レクリエーション協会と連携し、小中学生が一緒に楽しい運動遊びを体験することで、運動好きな児童生徒を育てる。
- (2) トップアスリートを招いて高い技術を学ぶことで、児童生徒の運動意欲と技能を高める。

2 実践(研究)の概要

(1) 課題について

今年度、本校児童の体力テストの結果を山口県平均と比較すると、柔軟性は優れているが、跳躍力、敏捷性、投力が劣っている。体を動かすことが好きな児童は多いが、登下校にタクシーを利用しているため運動時間が短い。中学生においては、体験する運動の種類が少ない傾向にある。

(2) 期待される成果(仮説)について

小中学生が、一緒に運動に親しむことのできる効果的な取組をすることで、小中学生の絆を深めながら児童生徒の体力向上と運動習慣の改善を図られ、運動好きな児童生徒が育つ。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 運動遊びの充実

①山口県レクリエーション協会との運動遊びの実施(通算3回)

体育の時間と昼休みにレクリエーション協会の方からラダーゲッターやしっぽ取り、ポイズンリムーバーなど様々な遊びを紹介してもらい、全員で楽しく遊んだ。中学生が参加できるときは、体力のある中学生と一緒に遊ぶことで、安全面や一人ひとりの運動量の確保に努めた。

(2) トップアスリートによる運動教室開催

①陸上教室

光市陸上競技協会の須田雅昭さんを招き、全校児童を対象に陸上教室を行った。短距離を速く走るためのスタートの仕方や足上げの方法、また、ミニハードルやラダーを使ってのトレーニング方法を学ぶことができた。専門的な指導を受け、児童の陸上競技への意欲が高まるとともに、運動量もしっかり確保することができた。

②バドミントン教室

S/Jリーグで活躍する地元ACT SAIKYOから2名の指導者を招き、バドミントン教室を行った。小中学生のみならず、保護者・地域の方、教員も参加して実技練習や試合を行うことで、技術の向上とともにバドミントンの楽しさを感じることができた。

③車いすバスケットボール出前授業

山口県車いすバスケットボール連盟から4名の方を招いて、人権教育と本事業を兼ねて出前授業を行った。前半は、車いすに座って様々なゲームに挑戦しながら車いすの扱い方に慣れていった。後半は、実際に車いすバスケットボールを試合形式で行った。選手との交流を通して、個人の特性に応じてスポーツに親しみ、豊かな人生を送っていることを知り、遊びや運動に対する理解や意欲を高めることができた。

児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

事前に健康観察を行うとともに、教室で行う遊び、体育館や運動場で行う運動など広さを考えて場の設定を行ったり、周りに教員を配置したりすることで、どの児童生徒も楽しく安全に運動ができるようにした。また、小中学生の体力差を考慮した遊びができるよう配慮した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 様々なニュースポーツを学んだことで、遊びの幅が広がり、授業や遊びの中で生かしていくことができる。今後は、中学生との遊びや放課後子ども教室の中でも継続して実践していく必要がある。
- 2 児童生徒は、トップアスリートから高い技術を学ぶことで、運動への意欲が高まった。今後は、教員の指導力向上に努める必要がある。

○ 研究内容

陸上教室の様子

短距離走の練習をしている様子。指導者の動きに合わせてももを高く引き上げてスキップしている。



山口県レクリエーション協会との活動の様子

ポイズンリムーバーというゲームを小中学生がしている様子。その他ラダーゲッターやケンパーをして楽しんだ。



ACT SAIKYO バドミントン教室の様子

ACT SAIKYO のコーチ 2 名を指導者にして、ラケットの振り方を練習したり、ゲームをしたりして楽しんだ。



山口県車いすバスケットボール連盟による出前授業の様子

競技用車いすの取り扱いを練習した後、車いすバスケットボールをして楽しんだ。

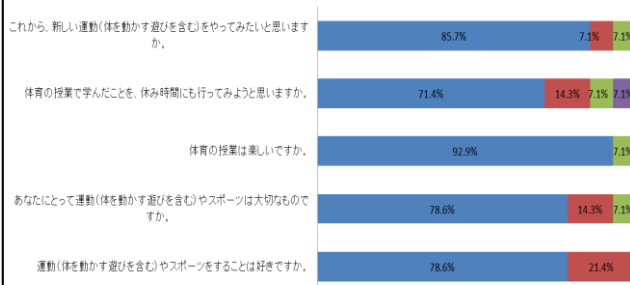


アンケートの結果

「遊び・運動大好きやまぐちっ子育成事業」を実施する前後の遊びに関する児童アンケート

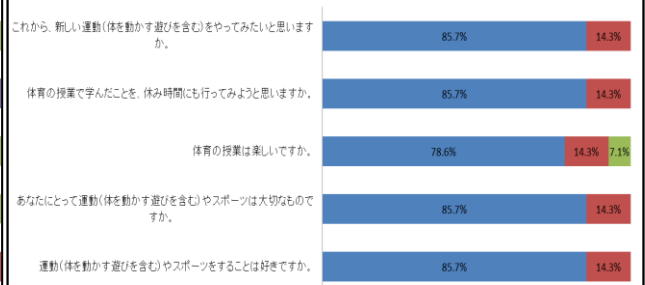
事前アンケート

■とてもそう思う ■思う ■あまり思わない ■思わない



事後アンケート

■とてもそう思う ■思う ■あまり思わない ■思わない



今後の取り組みについて

「遊び・運動大好きやまぐちっ子育成事業」を終えて

今回の取組を通して、児童の遊び・運動に対する関心・意欲が一層高まり、運動の苦手な児童もほとんど毎日遊び・運動するようになった。今後は、レクリエーション協会の方から習ったニュースポーツ・遊び・運動を授業や休み時間、中学生との交流遊びの中で取り入れていきたい。また、トップアスリートから学んだ指導技術についても研修を積み、授業の中で生かし、体力の向上をめざすとともに、運動好きな児童生徒を育てていきたい。